

## 北方領土の話

### 北方四島の島々

みなさんは「北方四島の領土問題」ということを聞いたことがありますか。どんな問題か知っていますか。

北方四島とは、北海道の東の海上にある歯舞群島（はぼまいぐんとう）、色丹島（しこたんとう）、国後島（くなしりとう）、択捉島（えとろふとう）をさします。

北方四島は、古くから日本人が住んでいた島々です。日本人によって開拓され、日本人が住みつけてきた島々です。北方四島には、第二次世界大戦で日本が負けるまで、およそ三千百世帯、一万七千人の日本人が漁業を中心に生活していました。

### 敗戦によるソ連の占領

第二次世界大戦が終わりに近づいた一九四五年八月八日、ソ連が日本に宣戦を布告しました。ソ連が千島列島の最北端にある占守島（しゅむしゅとう）に上陸したのは、日本が無条件降伏をした同年八月一五日より三日後の八月一八日で

した。ソ連軍は島づたいに南下し、八月二八日に択捉島に上陸、九月三日までに色丹島、国後島、歯舞群島に上陸し、四島をすべて占領しました。

当時、北方四島に住んでいた日本人は、ソ連軍の占領により、かなりの人々が小船で北海道に脱出しました。島に残っていた人々も、ソ連軍によって一九四九年（昭和二四）までに日本本土に強制的に送り出されました。

### 国境の取り決め

北方四島は、一八五五年（安政元年）に伊豆下田で「日露通好条約」が結ばれ、日露両国の国境は、択捉島から南は日本領土、得撫島（うるつふとう）から北のクリル諸島（千島列島）はロシア領土と決められました。

それ以後、一八七五年（明治八）の樺太千島交換条約、一九〇五年（明治三八）のポーツマス条約、一九五一（昭和二六）のサンフランシスコ平和条約などで千島列島の移動がありました。最後のサンフランシスコ平和条約には、北方四島の帰属については明記されていないこともあり、北方四島は現在もロシアの支配下にあります。

### 日本人の強い願い

これまで日本はソ連（ロシア）に北方四島を返すよう幾度も外交交渉を重ねてきました。当初、ソ連は「日本とソ連との間に領土問題は存在しない。解決済みだ。」と言っていました。日本は「北方領土は日本固有の領土だ。」と言いつづけました。意見が対立し、平行線をたどったままでした。

しかし、一九九三年（平成五）に、細川首相とエリツイン大統領とのあいだに合意文書「東京宣言」がむすばれました。「東京宣言」には、「過去の困難な北方四島問題を解決し、早期に平和条約を結ぼう。」とあり、話し合いの土俵ができ、領土問題の交渉が始まりました。

東京宣言以後、数回の話し合いがありました。ロシア議会での意見の不一致、ロシアの国内問題があり、すぐに北方領土が日本に返される状態にはありません。

北方四島が日本にもどってくることは、日本人の強い願いです。ねばり強く、時間をかけて話し合い、一日も早く日本にもどってくることを日本人みんなが待ち望んでいます。